

平成28年度NPO等による復興支援事業

いわて文化支援ネットワーク通信

アシスト・なう

18号

発行日
平成28年11月2日

発行:特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター / 印刷:杜陵高速印刷株式会社

第69回岩手芸術祭開幕フェスティバル



指揮・指導
寺崎 巖(岩手県管弦楽連盟 代表)

演奏
もりおかジュニアオーケストラ
奥州ジュニアオーケストラスクール
ジュニアアンサンブルみやこ

演奏曲目
パッヘルベル カノン
ヴィヴァルディ 弦楽のための協奏曲 RV122
フレッチャー フイドルダンス
合同ステージ 上を向いて歩こう

10月8日(土)、岩手県内の子どもたち約60名によるオーケストラ(岩手県管弦楽連盟・会長 寺崎 巖)は、県民会館大ホールステージで大人顔負けの素晴らしい演奏を披露した。

ジュニア・アンサンブルみやこのメンバーは、もりおかジュニア・オーケストラや奥州ジュニアオーケストラスクールの子どもたちと交じって堂々と演奏した。

ジュニア・アンサンブルみやこは宮古市の小・中学生12名が宮古市民文化会館でヴァイオリンを学んでいる団体である。発足から1年半を経過し、上達を見せた子どもたちは、檜舞台・県民会館大ホールの千数百名の大観客にも物怖じせず、ひたむきな演奏を見せた。日本弦楽指導者協会広島県支部や、いわて文化支援ネットワークからの支援で整備した楽器に感謝を込めながら、初心者とは思えない美しい音色を響かせた。

◇

この日、2時間の長旅の疲れも見せず、中ホールでの合同リハーサルに臨んだ

メンバー。ステージからあふれそうなのは参加人数の多さに圧倒され、最初は何処に並んだらよいかわからなくなってしまうなど戸惑いもあったが、だんだん慣れてきて、最終的には楽しく合奏できた。

いよいよ大ホールでのステージリハーサル。今回大人のサポート演奏は一切ない100%子どもたちのオーケストラだったが、アンサンブルも申し分無く、エネルギーがストレートに出てくる素晴らしい演奏になってきた。アドバイスを受けてみるみる上達していく子どもたちの潜在能力は本当に素晴らしいと感じた。



楽屋となったりハーサル室は、出演者とご家族の皆さんで満員状態。みんなで交流しながらお弁当をいただいた。各団体との交流がとても微笑ましい時間だった。

芸術祭開幕フェスティバルの最後を締めくくるジュニアと合唱のステージは会のエンディングにふさわしい盛り上がりの演奏となった。

宮古の子どもたちは大きな刺激を受け、更に意欲を見せている。これからも支援に感謝しながら、感動を届けられるよう練習に取り組んでいくことと思う。

(報告・寺崎巖)



いわて文化支援ネットワーク及び、日本弦楽指導者協会 広島県支部からの支援楽器(ケース)

吉里吉里 ふるさと科 公演事業

十月二十二日(土)、大槌町立吉里吉里学園中学部(柳田正人校長、生徒五十七人)の文化祭で、生徒たち手作りの「吉里吉里版国姓爺合戦」が上演され、会場では、詰めかけた約百五十人の家族、地域の人たちの大きな拍手が沸き上がった。



この「吉里吉里ふるさと科公演事業」は、大槌町立吉里吉里学園(小中一貫制)中学部の9年生二十二人が、地域の題材で演劇を作り上げることをサポートするもの。

県内で演劇活動をしている二宮彩乃さん、畠山泉さんに講師をお願いして、今年七月から四ヶ月間、のべ九回のワークショップに取り組んできた。

海を見下ろす中学校の校庭には、いまだ八十戸の仮設住宅が建ち並び、東日本大震災の被害の大きさを見せつけている。あの時、大槌町では、千二百人余りの犠牲者を出した。

町では、復興に立ち上がる中で、小中学校で「ふるさと科」という体験学習を行ってきた。これは、未来を担う子どもたちに、地域への理解を深め、防災や自身の進路などについてより深く考えてもらおうというものである。

吉里吉里学園中学部の文化祭でも、この学習に沿って、「ふるさと吉里吉里」を題材にした演劇を上演することになった。

七月、初めて学園を訪れた時、「生徒たちは、目を合わせようとしてもなくて、これからどうなるかと思っただ」と、二宮さん、畠山さんは振り返る。シャイな生徒たちとの距離

離を縮めるために、講師の二人は、お互いのコミュニケーションをはかるゲームや体操に時間を割いた。



次は、様々な角度から、ふるさとを見つめ直そうという作業。まずは「吉里吉里中かたるた」作り。「あは」「あおい海が見える校舎」。「き」は「吉里吉里のワカメは日本一」などとふるさと自慢の「かたるた」が出来上がった。

そして、夏休みの宿題は、「吉里吉里のクレヨン箱」と題して、地元風景の中に特有の色を見つけ出して写真に撮るといったものになった。海の青、神輿の赤、虎舞の黄色…。色彩豊かな吉里吉里のイメージが見えてきた。

こうした一連の作業から導きだされたキーワードが「海」「虎舞」「故郷」。ここから、虎退治の「国姓爺合戦」のストーリーが浮かび上がってきた。

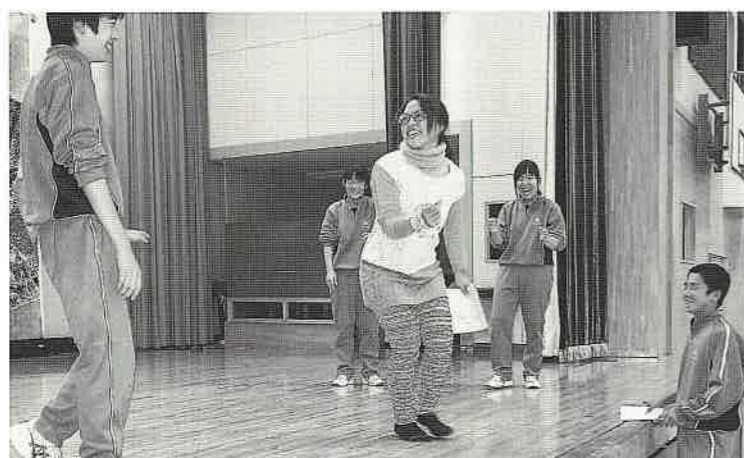


奇しくも、この地域に伝わる虎舞は、江戸時代に近松門左衛門の「国姓爺合戦」を観劇した吉里吉里の商人が持ち帰って広めたもの、という伝説がある。

虎退治と聞いて、皆の目が輝きだした。吉里吉里では、地域学校一体となって郷土芸能に取り組んでいる。

九月末までに、生徒たちの作文を組み込んで、「吉里吉里版国姓爺合戦」の台本が出来上がった。

十月に入り、稽古は熱を帯びていった。生徒たちは、授業前、そして放課後と、台本の読み合わせや、照明、音響を伴った練習を繰り返していた。指揮をとるのは、生徒会長の芳賀勝君。彼のきびきびとした指示で、稽古が進む。ここでも二宮さん、畠山さんが、発声や動きを的確に指導していた。



秋晴れの十月二十二日、吉里吉里中学校の満席の体育館では、生徒たちが熱演していた。

松村隼君が演じる和藤内は、浜辺で韃靼国から逃れてきた明の姫君に

出会ったことがきっかけで、中国に渡って、大明帝国の復活のために奮闘し、故郷に凱旋する。

見せ場は、やはり、和藤内と虎との闘い。舞台狭しと虎が舞うと、会場は、大いに盛り上がりつつあった。

プロの二人の指導を受けてきた皆の演技は堂々として、自信に満ちた舞台となっていた。

最後に、これまで指導をしてきた二宮、畠山講師に、生徒たちから、感謝の花束が贈られて、四カ月に渡る支援事業の幕を閉じた。



和藤内が故郷を想うシーンで、こんな一節があった。

「昔、友達と一緒に遊んだあのきれいな海。それが町を襲った。あたり前のことがなくなった。それを乗り越えて私たちは生きたのだ」

これは、一人の生徒の作文からとったセリフだ。

今回の支援事業が、「ふるさとの良さを見直し、併せて自己の将来を考える」という大槌町「ふるさと科」学習の一助となり、生徒たちが、吉里吉里の復興と将来を担ってくれることを願いたい。

(報告・淵澤行則)



‘いわて震災詩歌2017’ 募集のお知らせ

怒りを、悲しみを、希望を握りしめ、言葉を詩にたたきつけよう!!

あの東日本大震災から5年半。被災地では、明日の希望に向けた着実な歩みが続いています。いわてアートサポートセンターでは、被災した方々や、被災地に寄り添う方々から、その思いが凝縮した詩を募集します。

喪失の怒りや悲しみ。そして再生への意志や未来への希望、支援への感謝など、様々な思いを詩に託して、自由に表現してみませんか？

お寄せ頂いた作品は、一般の部（大学生も含む）と高校生以下の部とに分け、選考を経た上で、何篇かを詩集「いわて震災詩歌」として発行します。

さらに、掲載詩の一部は平成29年3月開催の「3.11文化復興支援フォーラム」にて朗読発表いたします。このフォーラムでは、「震災と詩歌」と題して文芸関係者によるパネルディスカッションも行われます。

応募方法

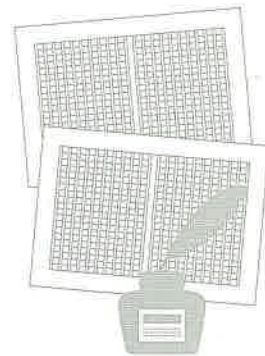
◎応募点数は1人3編以内とし、1編がB4版400字原稿用紙4枚以内。ワープロ原稿も可。

原稿用紙は開いたままホチキスで右綴じとすること。作品は未発表のものに限り、応募原稿は返却しません。

作品には「題名」「氏名」「年齢」「住所」「電話番号」「学校名または職業」を原稿の欄外に記入し、下記宛先までご郵送ください。

- ・応募資格 岩手県在住の方。岩手県出身の方。
- ・募集期間 平成28年9月1日（木）～11月30日（水）※必着
- ・募集部門 一般の部（大学生も含む）、高校生以下の部
- ・選考結果発表 平成28年12月中を予定
- ・選考委員 東野正さん（岩手県詩人クラブ会長）
池田克典さん（前岩手県文化振興事業団理事長）
齋藤純さん（作家、「街もりおか」編集長）

- ・応募先 〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-20永卯ビル3階
いわてアートサポートセンター内 「いわて震災詩歌」係
- ・主催・問合せ 特定非営利活動法人いわてアートサポートセンター
TEL：019-604-9020 E-mail：kaze@iwate-arts.jp
- ・協力 岩手県詩人クラブ



詩が採用された方には、薄謝を進呈します。若い世代の方の応募もお待ちしています。

いわて文化支援ネットワーク

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-20永卯ビル3F
NPO法人いわてアートサポートセンター内
☎019-604-9020 FAX:019-604-9021
E-mail:kaze@iwate-arts.jp
http://ibsn.web.fc2.com/

●支援金振込先(振り込み手数料は負担願います)

- みずほ銀行 盛岡支店(普) 1190698
- ゆうちょ銀行 店名【八三八】(普) 0808732
- 岩手銀行 中ノ橋支店(普) 2074520
- ※口座名:いわて文化支援ネットワーク

現在の支援金総額 **10,248,115円** (平成28年10月24日現在)

ご支援、ご協力
ありがとうございます